

第2節 秦地域における二大前方後方墳の評価

最後に、総社市秦地域の二大前方後方墳について述べる。今回調査した茶臼嶽古墳と近接する一丁塚1号墳、両者とも丘陵尾根頂部の眺望に優れたところに立地する単独墳で、大型の前方後方墳という共通点があるが、墳丘、葺石、出土遺物には大小の違いがみられる。今回の調査によって茶臼嶽古墳が一丁塚1号墳に先行することが明らかとなったことにより、その違いを時期的変化と捉えることができるようになった。

第一に、墳丘については、茶臼嶽古墳は各トレンチの状況や側面観から、墳丘成形は地山削り出しによる部分が大きいと考えられる。一丁塚1号墳は等高線図や現地観察からみて墳丘形態は整っており、前方部・後方部とも高さがあることから、相当量の盛土によって成形されていることが推定される。第二に、葺石について、茶臼嶽古墳では各トレンチでみられた石材の大きさも不揃いで、葺き方にも規則性のある箇所、ない箇所という不統一感があった。石材には角ばった山石を用いていた。一方で、一丁塚1号墳では比較的大きさも揃った、角のとれた石を各所で同じように葺いている。第三に、出土遺物について、茶臼嶽古墳では土器のみが出土し、壺形土器祭祀を行っていたことがわかる一方で、一丁塚1号墳では、普通円筒埴輪、朝顔形円筒埴輪、壺形埴輪、不明形象埴輪が出土しており、完全に埴輪を用いた祭祀へと移行している。これは、当該地域における土器祭祀から埴輪祭祀への転換が両者の時期の間で起こったことを示している。

第1表 岡山県前方後方墳一覧

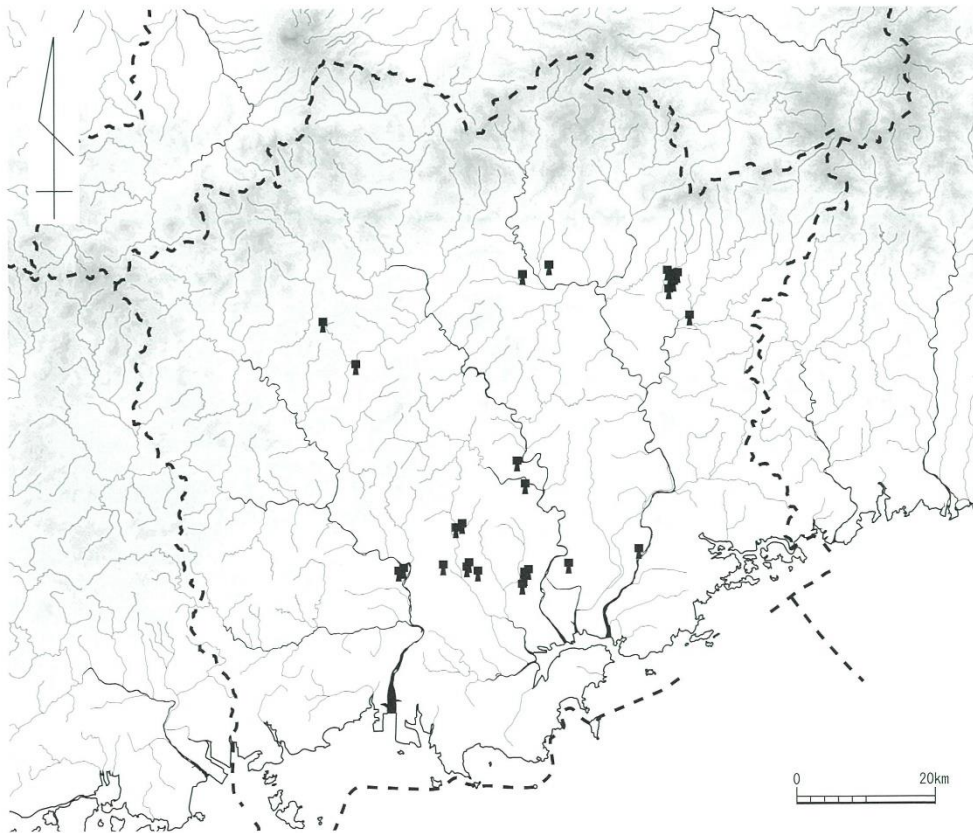
番 号	古 墳 名	所 在 地	墳長 (m)	時 期	文 献
1	植月寺山古墳	勝央町植月	91.5	前期前半	近藤編1991b
2	一丁塚1号墳	総社市秦	70.0	前期前葉	谷山・高橋・村田編2014
3	美野高塚古墳	勝央町美野	65.0	前 期	倉林・澤田編2000
4	岡高塚古墳	勝央町岡	56.0	前 期	倉林・澤田編2000
5	茶臼嶽古墳	総社市秦	55.4	前期初頭	—
6	美野中塚古墳	勝央町美野	52.5	前 期	倉林・澤田編2000
7	諏訪神社裏古墳	美咲町原田	50.0 (or53)	前期前半	倉林・澤田編2000
8	備前車塚古墳	岡山市四御神・湯迫	48.3	前期初頭	近藤編1991b
9	植原寺山古墳	美作市植原下	46.0	前 期	近藤編1991b
10	七つ塚1号墳	岡山市津島笹ヶ瀬・津島西坂	45.1	前期初頭	近藤編1991b
11	菅2号墳	岡山市高津菅	44.0	前期前半	近藤編1991b
12	西宮神社裏古墳	勝央町美野・田井西宮	44.0	前 期	倉林・澤田編2000
13	荒木山東塚古墳	真庭市上水田荒木	43.0	前期前半	近藤編1991b
14	田井高塚古墳	勝央町田井	42.0	前 期	倉林・澤田編2000
15	西坂古墳	岡山市西原	40.0	前 期	近藤編1991b
16	田邑丸山2号墳	津山市下田邑	40.0	前期後半	小郷2000
17	津倉古墳	岡山市京山	39.0	前期前半	光本編2016
18	久米三成4号墳	津山市中北下	35.0	中期前半	近藤編1991b
19	都月坂1号墳	岡山市津島本町	33.0	前期初頭	近藤編1991b
20	久米10号墳	総社市久米	32.9	前 期	近藤編1991b
21	小田鼻古墳	真庭市上髻部	32.0	中期後半	近藤編1991b
22	大崎西1号墳	岡山市門前	30.0	前期前半	近藤編1991b
23	石津神社裏山2号墳	岡山市吉井	30.0	中期後半	近藤編1991b
24	上土田4号墳	岡山市上土田・下足守	27.0	前期前半	近藤編1991b
25	大崎西2号墳	岡山市大崎	26.6	前期前半	近藤編1991b
26	上土田1号墳	岡山市上土田	26.5	前期前半	近藤編1991b
27	七つ塚5号墳	岡山市津島笹ヶ瀬	25.0	前期後半	近藤編1991b

上述した三点から、一丁埴1号墳はより定型的な古墳として捉えることができる。茶臼嶽古墳の頃には、畿内政権を中心として配布された古墳の造り方に関する情報が浸透しておらず、独自色ともいえるような特徴を備えていたものが、徐々に築造上の技術やルールが普及し、一丁埴1号墳の築造にあたってその知識が発揮されたと考えられる。両古墳の変遷から、地方における大型古墳が定型化していく過程の一端が窺えるといえる。前方後方墳という、前方後円墳の下位に位置づけられることの多い墳形ではあるが、茶臼嶽古墳から一丁埴1号墳になり墳丘規模が大きくなることは、古墳の定型化と合わせて当該地域の首長が畿内政権との関係を深めた結果と思われる。

古墳時代を通して11,000基を超える古墳が築造された岡山県域においても、他地域同様に前方後方墳が少数派の墳形であることは変わらない。岡山県内では、現在27基の前方後方墳が確認されている（第1表）。そのうち、24基は古墳時代前期の間に築造されたもので、中期に入ると築造数は激減し、後期には築造されなくなる。

分布状況としては、県南部の旭川中下流域・足守川上流域を中心とした地域、県北部の吉井川上流域を中心とした地域に、時期的にもまとまった分布がみられるが、それ以外は散発的な築造状況である（第29図）。古墳の規模は、勝央町などの県北部で比較的大型の前方後方墳の築造が目立つ。茶臼嶽古墳・一丁埴1号墳は県南で1,2番目の規模をもつ前方後方墳が続けて築かれていることを示しており、さらに総社平野及び周辺地域に限っていえば、前方後円墳を含めても最古級の古墳による首長系列となる点が注目される。

一丁埴1号墳の発見までは大型の前方後方墳は県北地域に多く見つかっており、高梁川以西の地域



第29図 岡山県前方後方墳分布図（S = 1/1,000,000）

では前方後方墳自体が確認されていなかった。その空白地域に、4世紀前半頃築造の一丁坵1号墳、3世紀後半頃築造の茶臼嶽古墳が立て続けに発見された。しかも、近接する両者の比較によって古墳時代前期段階における前方後方墳の特徴の明瞭な変遷が追えることの意義は大きい。総社市内では1900基余りもの古墳が確認されているが、弥生墳丘墓か古墳か、評価の曖昧な宮山墓を除けば、茶臼嶽古墳は古墳として現時点で最大・最古のものであり、それが前方後方墳という少数派の形態であることは興味深い。

同一山塊上に近接して築かれた前期古墳として、三角縁神獣鏡でも古式の四神四獣鏡を出したとされる秦上沼古墳、全長63mの前方後円墳で、古手の特徴をもつ埴輪が採集されている秦大坵古墳との関連性も問題となろう。前方後円墳である秦大坵古墳と前方後方墳2基が、同一の首長系列となるのか、備前南部でみられるように、並行する時期に別々の首長系列が展開された状況を示すのか、今後の重要な研究課題である。

参考文献

- 宇垣匡雅「④中国」『古墳出現と展開の地域相』古墳時代の考古学2 同成社 2012年
- 小郷利幸『田邑丸山古墳群 田邑丸山遺跡』津山市埋蔵文化財発掘調査報告第67集 津山市土地開発公社・津山市教育委員会 2000年
- 倉林眞砂斗・澤田秀実編『美作の首長墳 墳丘測量調査報告』美作地方における前方後円墳秩序の構造的研究I 吉備人出版 2000年
- 近藤義郎・鎌木義昌「109 備前車塚古墳」『岡山県史』第十八巻考古資料 岡山県 1986年
- 近藤義郎編『七つ坵古墳群』七つ坵古墳群発掘調査団 1987年
- 近藤義郎編『権現山51号墳』権現山51号墳刊行会 1991年a
- 近藤義郎編『前方後円墳集成』中国・四国編 山川出版社 1991年b
- 田中 裕「②前方後方墳の歴史性」『墳墓構造と葬送祭祀』古墳時代の考古学3 同成社 2011年
- 谷山雅彦・高橋進一・村田 晋編『一丁坵古墳群』総社市埋蔵文化財発掘調査報告23 総社市教育委員会 2014年
- 光本 順編『津倉古墳 第1次調査発掘調査概要報告』岡山大学大学院社会文化科学研究科 2016年